

2026年3月期第1四半期 決算説明会・主な質疑応答

決算説明会での主な質疑応答を掲載しています。

開催日時：2025年8月7日（木）

<ご留意事項>

「主な質疑応答」は、説明会での質疑をそのまま書き起こしたのではなく、ご参加いただけなかった方々向けに、当社の判断で簡潔にまとめたものです。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

全社

Q：今回公表の米国関税影響の算定前提について教えてください。

A：営業利益に対する通年の関税影響額は75億円を見込んでいます。国別関税率の前提は、日本・EUは15%、タイは19%、中国は55%、英国は10%としています。影響額の算定には、米子会社保有する在庫の残高および価格転嫁とそれに伴う需要減等の影響を考慮していますが、関税影響に伴う景気悪化といった付随的な影響は織込んでいません。セグメント別の影響額は、映像事業が6割強、ヘルスケア事業が3割弱、映像・ヘルスケア事業以外で1割強となる見込みです。

Q：前回公表時の営業利益に対する米国関税影響100億円と今回公表の75億円との差は何か。

A：前は5月時点での暫定的な国別関税率前提での大まかな試算でしたが、今回は関税率を直近の数値にするとともに、価格転嫁の影響を足元の需要変化等をもとに見直しました。

Q：Q1の会社計画に対する実績の進捗状況について教えてください。

A：社内計画と比較して、全社では売上が約50億円、営業利益が約30億円程度下振れました。Q1営業利益には13億円の関税影響がありましたが、社内計画ではこの関税影響が織り込まれていませんでした。セグメント別では、映像事業は関税影響を受けたものの、経費の未消化により概ね計画どおりの着地となりました。またコンポーネント事業においては、前倒し販売があったため、売上・営業利益ともに計画を上回りました。一方、精機事業、ヘルスケア事業、デジタルマニュファクチャリング事業では、一部販売の遅れにより売上が下振れとなりました。全社の営業利益下振れに関しては、主にヘルスケア事業およびデジタルマニュファクチャリング事業が影響しています。

映像

Q： 下期業績予想について関税影響以外は見直していない背景は？ 今後の見通しについて教えてほしい。

A： 下期の見通しについては、グローバルでの市況が不透明なため、状況を精査し、慎重に見極める必要があり、関税影響のみを反映しています。今後も製品ミックスが下方ヘシフトする場合には、ダウンサイドリスクが生じる可能性があります。

精機

Q： 米国の一部の先端ロジック半導体市況が厳しく、半導体製造・検査装置メーカーの中には受注キャンセルや返品要請があるようだが、半導体装置事業へ影響しているか？

A： 期初より、事業環境を踏まえて米国への半導体露光装置の販売は限定的に想定していたことから、影響はありません。

Q： 今期の精機事業のサービスビジネスの状況は？

A： 今期の半導体装置事業の保守・サービスビジネスの売上収益は前期より減少するとみっていますが、下期から市況は緩やかに回復するものと想定しています。

Q： 7月より受注開始したデジタル露光機「DSP-100」の競合他社との差別化要素や評判について教えてほしい。

A： 当社のデジタル露光機「DSP-100」の特長は、画角の広い露光フィールドと高い生産性を備えていることであり、大型のチップが配置される AI 向けサーバーなどのデータセンター向け用途で、他社に対し優位性があります。現在、複数の顧客からお問い合わせや評価をいただいております。来年度の上市に向けて順調に進捗しています。

Q： G10 向け FPD 露光装置の需要は？

A： G10 向け FPD 露光装置が得意とする 65 インチや 75 インチの大型パネルの需要は非常に活況であり、生産能力の拡大は期待されていますが、現状、新たな装置需要には至っていません。当社としては、サービス関係のアイテムをご提供することでお客様の生産性を向上させていく取り組みを進めています。

ヘルスケア

Q： 下期業績予想について、関税影響以外は見直していない背景は？

A： ライフサイエンス分野において、足元では米国のアカデミア向け助成金の打ち切りや保留が影響しましたが、一部で助成金の再開の動きによる受注回復の兆しもあり、下期に回復できる可能性があると考えています。アイケア分野では、上期は米国において前期 Q4 への販売前倒しの反動が多少ありましたが、下期には回復を見込んでいます。また、十分に開拓できていない欧州やアジア地域でのチャネル

開拓を進めており、通期では前期並みの売上を見込んでいます。

コンポーネント

Q： EUV 関連コンポーネントの販売の状況は？ Q 2 以降に需要の変化はあるのか？

A： EUV 関連コンポーネントに関しては、当期の販売は前期とほぼ同水準で推移するものとみています。半導体市場では EUV 露光を用いた先端領域の回復が遅れており、最終顧客の投資のタイミングが後ろ倒しになる可能性もあるとみています。

以上